

ワールドストリートサッカーチャンピオンシップ ドイツブランデンブルグ州派遣 松村敦也

サッカーを通じての国際交流

ドイツ入国後、最初に食べた物がバーガーキングの wopper でした。機内食ですでお腹いっぱいの中、日本のサイズではあり得ないほどの大きさのハンバーガーと飲み物が出て来た時には正直驚きました。派遣期間中ドイツにいて気づいたことの一つ目は基本的に食べ物のサイズが大きいということです。滞在期間中シュニッツェル（ドイツ版カツレツ）やシュパーゲル（ホワイトアスパラガスにバターをかけたもの）やアイスバイン（豚肉の塩漬け）などの伝統的な料理を食べる機会があったのですが、いずれもサイズが大きかったです。でも美味しかったです。正直、料理に関しては日本が断然美味しいと思っていましたが、ドイツ料理も日本と負けないくらい美味しかったです。初日は、車でコトブスに移動し市内のホテルに宿泊しました。

2日目はコトブス市内にあるスポーツセンターを見学し、実際にサッカーコートを使い練習をさせてくれました。ドイツのスポーツ施設はどれも素晴らしく選手たちが快適に練習できるように様々な工夫を凝らしていました。例えば、競輪場のコースは選手たちの足にわざと負荷のかかるコースを作ることによって本番の試合の時、普段よりも軽く感じるようにさせているそうです。このような

ワールドストリートサッカーチャンピオンシップ ドイツブランデンブルグ州派遣 松村敦也

サッカーを通じての国際交流

充実した施設は日本にはないと思いました。ドイツがいかにスポーツに力を入れているのかを実際に感じることができました。

3日目はポツダム周辺を観光しました。ポツダムの街並みはとてもオシャレで自分がヨーロッパに来たことを実感させるものがありました。道路は石畳でできており日本にはない建築様式もたくさん見ることができました。ポツダム郊外でのショッピングも日本とは違ったものが置いてあり楽しかったです。

4日目はブランデンブルグ州政府を表敬訪問しました。表敬訪問では、これからも埼玉県とブランデンブルグ州との交流を図って行きたいということをお話しました。最後に私たちからサイン入りのボールとセンスを渡し、少し周辺を観光してその日を終わりました。正直この日は緊張していたため、終わった後に疲れをどっと感じたのを覚えています。

5日目以降はプローラへ向かいワールドストリートサッカーに参加しました。このワールドストリートサッカーの面白いところは「フェアプレー」をテーマに掲げていて、大会が始まる前に「フェアプレー」の定義を参加者たちが自分たちで考え、それを意識しながら大会に参加することです。「フェアプレー」に関するワークショップはすごく自分のためにもなり、色々な国の人たちの意見を聞

ワールドストリートサッカーチャンピオンシップ ドイツブランデンブルグ州派遣 松村敦也

サッカーを通じての国際交流

くこともでき面白かったです。そしてルール上基本的にフィジカルでのコンタクトが禁止されていました。また、自分がファウルをとってしまったことを自分で申告しなければなりません。もし申告しなかった場合、各チームそれぞれ持っているフェアプレーポイントが減点されます。最終的に、持っているフェアプレーポイントが0になると負けになってしまうというルールでした。試合終了後、各国のリーダーは会議室に集まり、その日行った試合のどんなところがフェアだったのか、どんなところがアンフェアだったのかを話し合いました。もちろん全て会話は英語で進められました。参加国は、スペイン、フィンランド、カナダ、コソボ、ドイツ、日本、アメリカ、チリ、ニュージーランド、ウェールズなど様々な国から来ていました。様々な国から来た人たちと一緒に参加して気づいたことが一つありました。それはたとえ言語が通じても通じなくとも、外国人の方は積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢が強かったという点です。彼らは意識してないのかもしれないですが、とにかく私たちに話かけてくれました。私たちもそうですが、日本人は基本的にコミュニケーションを取るのが苦手だということ感じました。その一方、特に素晴らしかった国がチリで、スペイン語しか話せないチリの選手でしたが、スペイン語で積極的に話かけて

ワールドストリートサッカーチャンピオンシップ ドイツブランデンブルグ州派遣 松村敦也

サッカーを通じての国際交流

くれました。私はジェスチャーを駆使しながらなんとかコミュニケーションを取り、チリの選手からの質問攻めに耐えました。そこで気づいたのはコミュニケーションで大切なのは語学力だけではないということです。私になんとかして伝えようとするれば、相手もそれに耳を傾け、理解しようとしてくれるのです。またジェスチャーや顔の表情から相手が言っていることを何となくですが理解できました。コミュニケーションを取る上でノンバーバルコミュニケーションがこれほどにも重要であることを体感しました。幸いにも私のチームメイトにスペイン語既習者がいて、その後は彼らを通じてコミュニケーションを取りました。

ワールドストリートサッカーの試合の結果としては、入賞もできず不甲斐ない結果に終わってしまいました。しかし、ただ単に勝ち負けではなくフェアプレー精神を通じていろいろなことを経験できたことが私にとって一番の収穫だと思っています。また、このような素晴らしい大会に招待してくれたワールドストリートサッカーチャンピオンシップ関係者、ドイツで私たちをサポートしてくれた埼玉県庁の国際課関係者の方に感謝しています。ありがとうございました。